

学校名	広島県府中市立広谷小学校
校長名	陶 山 典 江
所在地	府中市鷗飼町97-3
H P	http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~hirotani-shou/
学級数	14学級
タイプ	○

1 研究の概要

(1) 研究主題

論理的思考力、表現力の育成

～「ことばの時間」に身につけた言語技術を授業に活かして～

(2) 研究のねらい

平成17年度から、「ことばの時間」を特設し、言語技術指導を行った結果、児童は「結論先行で理由をつけて説明すること、ナンバリングを使って考えを整理することなどができるようになった。また、教師は、曖昧な答えに対して、明確な根拠を求める切り返しを意識して指導するようになった。しかし、適切な根拠をもとに相手にわかりやすく説明するといった論理的思考力・表現力の育ちが十分ではなかった。そこで、18年度は、昨年度以上に言語技術を授業の中で活かしたり、「書く活動」を工夫したりして、論理的思考力・表現力の育成に取り組むことにした。

(3) 研究組織・体制

4者（校長・教頭・教務主任・研究主任）によるミーティング（週1回・2時間）を行い、進捗状況管理・今後の進め方・見直しなどを行う。
教育研究推進部に「ことばの教育」部門を設け、企画運営をする。

2 2年間の取組みの概要

(1) 特設「ことばの時間」の取組み

教育課程の工夫

全学年、週1時間、「ことばの時間」を特設し、言語技術指導を行った。

「ことばの時間」を教科・領域と関連づけたカリキュラムの作成を行った。

指導方法の工夫

教科授業で児童が相互に考えを深め合えるよう、「ことばの時間」において児童どうしがかかわる場面を設定した。

(例)「問答ゲーム」: 二人組・グループ・一人対全員・長続き問答ゲームなど

自分の考えを必ず持つよう、自力解決の時間を確保したり、ワークシートに書かせたりした。

学習内容の定着のために、授業の終末では学習内容を原稿用紙に文章化させた。

学習の見直しや意欲の向上のために、相互評価・自己評価を取り入れた。

内容の工夫

「言語技術」を日常生活に活かしていくために、題材を日常生活や興味関心を持っていることから設定したり、地域の特徴を生かした教材開発を行ったりした。

(例)「問答ゲーム」: 一番好きな遊びは 社会見学で学んだことは 広谷小学校の自慢は

「説明」: お勧めの本の紹介文 子ども発表会の案内状

「分析」: 保護者や児童アンケートの分析等

【実践事例1】

第4学年 特設「ことばの時間」

教材名 府中風お好み焼きの作り方「説明」の技術

目標 わかりやすい伝え方（グルーピング、一文一義、順序よく）の技術を身につける。

指導計画（各1時間・計2時間）

・お好み焼き作りの道具と材料を分類する。

・お好み焼き作りの手順を短い言葉で順序よく説明する。

展開の一部

教 師	児 童	留意点
お好み焼きを作るために準備物を言います。（よくなし例） 相手にわかりやすい説明の仕方を書きましょう。	A先生の説明の仕方では、いろいろなものが一緒になっていて聞いている人はわかりません。 B道具と材料は分けて言うといいと思います。	道具と材料を混在させて分類の必要性に気づかせる。 自分の考えを持たせるために、ワークシートを活用する。
どうして、道具と材料に分けるのですか。 道具はどのような順番でいいますか。	B道具と材料を分けて言うといい、聞いている人が頭の中で分けて考えられるからです。 C道具は、ボール・さいばし・おたまとホットプレート・フライ返しです。	切り返し 材料と道具を分類するよさに気づかせる。
どうしてその順番で言うのですか。	D道具を使う場面ごとに分けて言うといい、相手にわかりやすいと思います。	切り返し 道具をさらに分類させ、相手意識を持たせる。
原稿用紙にまとめよう。		定着のため文章化させる。

(2) 言語技術を教科の授業に活かす取組み

思考を深めるために「言語技術」を活かす場面や方法を指導案に記述した。

授業において、言語技術が有効であったか授業検証を行った。（授業検証レポートの作成、一人年間2本）

【実践事例2】


第2学年 算数科

単元名「ちがいをみて」啓林館出版

本時の目標 2本のテープ図を活用して、二要素一段階の逆思考の求小の問題を解くことができる。

本時の問題 1組は34人です。1組は2組より3人少ないそうです。2組は何人ですか。

展開の一部

教 師	児 童	留意点
どのように考えたのか発表しましょう。 問答ゲームのように言ってみましょう。	Aわたしは、たし算にしました。 1組の人数は34人で、1組は3人少ないから、1組と2組は3人違って・・・(続く) A1組の人数は34人です。1組は2組より3人少ないので 34+3=37になります。	 結論先行で理由を明らかにさせる。

教師	児童	留意点
問題文に少ないという言葉があるのでひき算ではないのですか。	<p>ㄐ問題文の少ない多いという言葉では、たし算かひき算かは決められません。</p> <p>ㄑ問題文では、2組の人数をたずねています。2組は1組より3人多いことになるからたし算にします。</p>	<p>【切り返し】</p> <p>多い少ないという言葉では演算決定はできないことを確認する。</p>
どうすればたし算かひき算かわかりますか	<p>ㄒ「ちがひ」を2本のテープ図にかくと、たし算かひき算かがもっとよくわかります。</p>	<p>【切り返し】</p> <p>2本のテープ図活用のよさに気づかせる。</p>

- (3) 言語技術を日常生活に活かす取り組み
 話す力を高めるために、題材を決めて朝の1分間スピーチを続した。
 場に応じた話し方を身につけさせるために、職員室、保健室の入室指導を行った。また、集会活動では伝えたいことを整理して大きい声ではっきり話すよう指導した。聞き取る力をつけるために、集会時の話の感想をその場で交流したり、日記に内容や感想を記述したりする取り組みを行った。
 読書活動を推進するために、教師の読み聞かせやアニメーション・読書カードの工夫・ボランティアの方による読み聞かせなどに取り組んだ。
- (4) 保護者啓発
 「ことばの教育」通信の発行(月1回)や学級通信・学級懇談会で学習内容を知らせ啓発活動を行った。

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

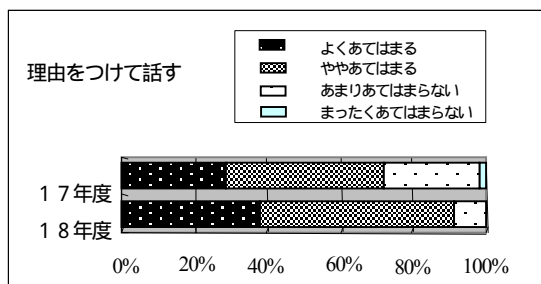
児童の変容(日記・学習感想・アンケートより)

- 聞き取る力・考えを深める力の向上
 自分が考えていることは正しいと思っても、視点を変えて他の人から見ると自分とは違う考え方があると思った。(6年生)
- 考える(話す力・考えを持つ)意欲の向上
 授業中、急に指名されたとき、さっと自分の考えをまとめて言うことができるようになった。これは問答ゲームをして、いつも考えるということをしてきたからだと思う。(6年生)
- 比較して考える(考えを整理する)態度の向上
 算数のとき、自分の考えと似ているところや違うところを比べながら友達発言を聞いている。(5年生)
- 根拠を持って考えようとする態度の向上
 自分の考えを発表する時、理由をつけて話すように意識している児童が増えた。【資料】
- 積極的な表現活動の増加
 自分の体験をふり返り、言葉や図を使って表現し、積極的に作品応募する児童が出てきた。【資料】

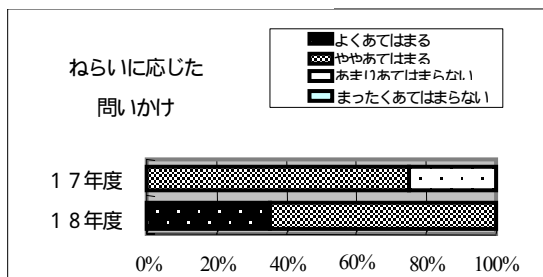
教師の変容(教師アンケートより)

- ねらいにせまる発言や切り返しを意識している。
 【資料】
 考えの理由や根拠を求めている。(例:どこに書いているか。どの言葉からわかったのか。)
 相手意識を持ち、整理して話をしている。

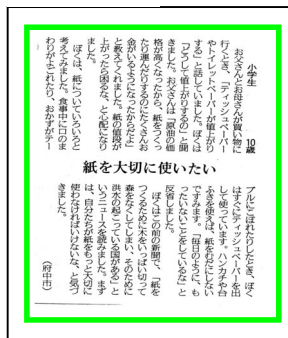
【資料】 3年～6年対象



【資料】 全教員対象



【資料】



【中国新聞8月掲載】



【みんなの新聞コンクール県知事賞】

(2) 課題

児童は、言語技術の型を使用して考えを表現できるようになったが、思考の深まりについてはまだ課題が残る。今後、教習授業において、比較して考えたり具体例や事実を根拠として示したりすること等を通して論理的な考え方を育てていく必要がある。
 教師は、児童にかかわり合った発言をさせ、その発言をねらいにせまるよう組織していく力をつけることが課題である。

(3) 今後の改善方策等

- 言語技術を活用し思考を深め表現する授業を創造するための指導力の向上
 - 全教師による「ことばの時間」(全20時間)カリキュラムの作成
 - 言語技術を活用した授業実践例の持ち寄り研修等
- 児童のかかわりあった発言をねらいにそって組織する授業の創造
 - 指導案の工夫(かかわらせる場面を設定・板書計画の添付・授業評価表の活用等)
 - 「深める」過程での論点の整理
 - 活発な討議の土台となる学級の支持的風土づくり等